

芸術WG取りまとめ（案）

目次

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性

- | | |
|------------|--|
| (1) 現状の成果 | 現行学習指導要領の考え方／これまでの成果 ……P.1 |
| (2) 現状の課題 | 芸術系教科・科目の意義や特性を踏まえた学びの充実／学習指導要領実施上の課題… P.1 |
| (3) 改善の方向性 | 文化芸術教育への期待／総論……P.2 |

2. 目標及び見方・考え方のあり方

- | | |
|----------------|----------------------|
| (1) 目標のあり方 | 改善の方向性／資質・能力の整理……P.3 |
| (2) 見方・考え方のあり方 | 改善の方向性……P.3 |

3. 資質・能力の構造化のポイント

資質・能力の構造化の考え方／高次の資質・能力の考え方……P.4

4. 内容の改善のあり方

- | | |
|---------------|--|
| (1) 内容の充実について | 芸術系教科・科目の系統性に応じた内容のあり方……P.5 |
| | 高等学校芸術科の内容のあり方／伝統と文化に関する教育のあり方……P.6 |
| | メディア芸術や舞台芸術などの多様な芸術や文化に関する学びの充実のあり方……P.7 |
| (2) 内容の精選について | 精選の方向性／各教科等における内容の精選等……P.8 |
| | 創意工夫を生かした授業づくりに資する教科書の内容の精選等……P.8 |

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方

外部人材、文化施設等や地域と連携した学習の充実……P.9

他教科等と連携した学習の充実……P. 9 / デジタル学習基盤を活用した学習の充実……P.10

学習評価の改善充実……P.10

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

現行学習指導要領の考え方

- 芸術系教科・科目においては、表現及び鑑賞の活動を通じ、表現及び鑑賞の基礎的な能力、芸術を愛好する心情や芸術に関する感性、豊かな情操などの育成を図ることとしている
- 現行の学習指導要領においては、
 - 「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」などを規定
 - (1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等、の三つの柱で目標や内容を整理することで、芸術系教科・科目で育成を目指す資質・能力の明確化を図り、特に、身体を通して、知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくことを重視し資質・能力を整理

これまでの成果

- これらの改善を踏まえ、芸術系教科・科目においては、以下のように資質・能力の育成を意識した授業改善の取組が着実に進んでいる
 - <音楽>
 - 音楽を聴いて捉えた特徴について理解したり、音楽を形づくっている要素と関わらせて言葉で表したりすることなどに関する指導
 - <図画工作、美術、工芸>
 - 児童生徒が感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら、楽しく心豊かな生活などを創造しようとするに関する指導
 - <書道>
 - 生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりについて考え、書を生活や社会の中でどのように生かすかを考えたり判断したりすることに関する指導

(2) 現状の課題

芸術系教科・科目の意義や特性を踏まえた学びの充実

- AIの進化やグローバル化、知識基盤社会への移行に伴い、正解のない問いや予測困難な課題に対処できる力、人間の本来的な能力としての

身体性を伴った技能について、芸術系教科・科目での育成が一層求められている

- 芸術系教科・科目を学ぶ意義について、児童生徒が十分に実感できている状況には至っていないと考えられる
- 芸術系教科・科目においては、思いや考えを身体を用いて具現化し、新たなことやものをつくりだしていくという児童生徒の学びの過程を一体的に捉えられるよう、目標等に明確に整理していくことが重要である

学習指導要領実施上の課題

- 各教科・科目において、学習指導要領実施状況調査の結果や学校現場における実態等から、例えば、以下の課題がある

<音楽>

- 表現を工夫する場面で、思いや意図（表現意図）を言語化することに留まり、それを音楽で表現するための技能の習得が一体的に行われていない。このため、技能を活用して思いや意図を歌唱や演奏などで表すことや、表現を深めていくことが十分にできていない（表現）
- 根拠を明確にしながらいや意図（表現意図）をもち、技能の習得や活用によって豊かな音楽表現の能力を身に付けるとともに、音や音楽の新たな価値を見いだしていくことに課題（表現）
- 音楽表現の共通性や固有性などについて考えたことを根拠としながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことに課題（中、高 鑑賞）

<図画工作、美術、工芸>

- 発想や構想をする段階を「思考力、判断力、表現力等」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けているが、構想することと工夫して表すことは連続している場合が多く、両者の違いが分かりにくいという側面がある（表現）
- 結果としての作品のみに着目するのではなく、発想や構想をしたり、意図に応じ創造的に表したりする過程を重視した指導への改善が課題（表現）
- 作品などの表現の意図や特徴、創造的な工夫などについて根拠をもって感じ取ったり考えたりできるようにすることへの改善が課題（鑑賞）

<書道>

- 諸感覚を働かせ、身体性を伴った技能により表現したり、構想・工夫する中で考えや思いを言語化したりするなど、表現に係る資質・能力について「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」との関係が不明瞭で、学びの深まりを捉えにくい面がある（表現）

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

- 創作の指導において、自己との関わりを通して作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、表現の意図を自ら想起し創造的に構想・工夫することに課題（表現）
- 古典や名筆、名品を鑑賞する機会の一層の充実や、鑑賞を通して身に付けた資質・能力を表現に関連付けることに課題（表現、鑑賞）

（3）改善の方向性

文化芸術教育への期待

- 文化芸術は人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉となるものである
- 文化芸術を特別なものや限られた人のものではなく、日々の生活や社会の中で全ての人の生きることに関わりながら息づく、人間固有の本来的営みとして捉えることとし、以下のことが期待されている
 - 芸術が生まれてくる背景や歴史には、その基となる文化や社会があることを捉え、グローバルな視野の下で多様性を尊重し、様々な文化を理解しながら芸術と自分との関わりを考えていくこと
 - 感性と知性の両輪を働かせ、心が動く体験をもとに自分にとっての意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることや、情操を涵養することが重要。さらに、その意義を児童生徒と教師が共有し、感性や想像力を大切にしたい資質・能力を育成していくこと
 - 身体性を重視した体験的な学びは芸術系教科・科目の中核であり、諸感覚を働かせて対象に向き合うことで、感情や感覚と結びついた深い理解となる。併せてデジタルを効果的に活用し、教科等横断的な学びも位置付けることで、自分と芸術との関わりを感じながら学ぶことができるようにすること
 - 唯一の正解を求めるのではなく一人一人の特性を生かした学びを可能とし、多様性の包摂につなげていくことが重要。また、芸術によるコミュニケーションや探究を通して多様性を個人や社会の力に変え、ウェルビーイングへとつなげていくことができる芸術系教科・科目の強みを生かしていくこと

- これからの変化の激しい社会においてこそ、異なる分野を連携・統合し新しいものを創造したり、現在の課題解決にとどまらず、よりよい未来に向けて問題提起したり、意味や価値を創出したりし、生活や社会を豊かにすることにつながる価値を実感できるようにしていくこと

総論【補足イメージ1：11ページ参照】

- 現行の成果や課題、文化芸術教育への期待を踏まえ、芸術系教科・科目を学ぶ意義を実感しながら学ぶことができるようにするために、目標及び見方・考え方、内容の改善に当たっては、以下の基本的な方向性とすべきである

- ① 捉えたり感じたりしたことを、要素や特徴※、背景にある文化などとの関わりで理解したり、思考、判断、表現したりできるようにする
※音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素など
- ② 表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことと、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現することを、一連の過程として重視する
- ③ 表現及び鑑賞の学習において、心が動く体験を大切に、唯一の答えに導くのではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるようにする
- ④ 感じたことや工夫したことを伝え合うなどの言語活動等や他者とともに協働する学習を通じて、他者に共感し感じ方や考え方を深めたり、多様な視点で考えたりすることができるようにする
- ⑤ 生活や社会の中の芸術や芸術文化などに関わり、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることなどを重視し、豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことができるようにする

2. 目標及び見方・考え方のあり方

(1) 目標のあり方

改善の方向性【補足イメージ2：12～17ページ参照】

- 芸術系教科・科目の目標の柱書について、表現及び鑑賞の活動（義務教育段階）や、芸術の幅広い活動（高等学校段階）を固有の学習過程とし、教科・科目の特性や発達段階を踏まえ、現行の目標に示されている趣旨は、引き続き重要
- 芸術系教科・科目の資質・能力の3つの柱に係る目標のあり方について、1（3）の改善の方向性を踏まえ以下の観点から整理する
 - 文化芸術教育への期待や芸術系教科・科目の課題を踏まえ、学習指導要領の構造化による整理を勘案しつつ、現行の目標を基に改善
 - 「学びに向かう力、人間性等」について、自ら進んで対象や事象などに関わり、他者と協働して活動に取り組むことや、よりよい社会や幸福な人生につなげていくことを重視する
- また、高等学校芸術科の教科目標は、以下の観点からの改善を図る
 - 「知識及び技能」について、社会における芸術分野との関連を重視するとともに、幅広く芸術文化を捉えることができるようにする
 - 「思考力、判断力、表現力等」について、作品のメッセージ性や文化的・歴史的意義や価値、社会への影響力等を意識できるようにする
 - 「学びに向かう力、人間性等」について、心豊かな生活や活力ある社会の創造において芸術が果たす意義を明確にする

資質・能力の整理

- 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力について、自分の思いや考えをもつことと、思いや考えを基に身体を用いて表現することとが一連の流れとして捉えにくい点に課題がある
- 課題を踏まえ、「知識及び技能」の習得と、「思考力、判断力、表現力等」を育むことを往還しながら、未知の状況に対応できる「思考力、判断力、表現力等」を育むことができるよう改善する
- あわせて、変化する状況等に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくことを重視する

<音楽>

- 表現の工夫が具体化され、学びの深まりにつながるよう、習得した技能を生かして工夫して表現するプロセス全体を「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すこと

<図画工作、美術、工芸>

- 表現の活動において学びの深まりを捉えることができるように、児童生徒が発想や構想をし、工夫して表現するまでのつながりを重視し、その過程を「思考力、判断力、表現力等」として示すこと

<書道>

- 生徒が構想・工夫する学習の過程を重視しつつ、学びの深まりを見通して作品として表現することができるように、構想・工夫して表現するプロセス全体を、「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すこと

(2) 見方・考え方のあり方【補足イメージ3：18ページ参照】

改善の方向性

- 今次改訂においては、「見方・考え方」を、資質・能力の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生につなげていける学びの本質的な意義として整理
- 教師と児童生徒が卒業後までを視野に入れつつ共通の認識をもつことができるよう、教科の系統（音楽／図画工作、美術、工芸／書道）ごとに、小・中・高等学校を通して文言を統一する
- また、以下の方向性を踏まえ、見方・考え方について整理
 - 「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであることから、芸術系教科・科目に共通して重視することとし、教科の特性を踏まえ、感性や想像力を働かせることを示す
 - 教科固有の物事を捉える視点について、文化を継承し発展することを一層重視していくため、文化に関する視点を共通に含めつつ教科の特性を考慮して示す
 - 教科固有の考え方や判断の仕方について、芸術の本質的意義である創造性を重視し、意味や価値を追求することを示す

3. 資質・能力の構造化のポイント

資質・能力の構造化の考え方 【補足イメージ4：19ページ参照】

- 系統的に育成する資質・能力を明確にするため、活動に即して「表現」及び「鑑賞」の2つの領域に整理する
- その上で、音楽、図画工作、美術、工芸では、教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、教師が想定しやすいと考えられる内容のまとまりとして以下により区分を設ける
 - 音楽について、従前の分野を踏襲しつつ、背景学問の系統を基に整理する。小学校では歌唱及び器楽で同一の曲を扱う場合に、学習のねらいを焦点化した指導や評価が行われにくいなどの課題がある。このため、表現領域において柔軟で効果的な指導を行うことができるよう、「歌唱・器楽」及び「音楽づくり」により整理する。中学校及び高等学校では、専門性の高まりを踏まえ整理する
 - 図画工作、美術、工芸について、表現や鑑賞の活動自体が目的化し、育成を目指す資質・能力が必ずしも明確でない指導が見られるなどの課題がある。このため、教科・科目の本質に関わりながら学習していくことができるよう、学びの方向性を明確にする観点から整理※する
 - ※小学校図画工作「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」、中学校美術「自分と美術」「生活や社会と美術」など
- また、芸術系教科・科目においては、次の点に特徴がある。
 - 自分の思いや考えをもち、「知識及び技能」を活用して、表現したり鑑賞したりする過程を往還しながら、資質・能力が育成されていく
 - 身体を用いながら対象や事象と関わり、知識や技能を自分のものとすることで、考え方や捉え方の豊かさにつながり学びの深まりが生まれる
- このような点は「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを支える構造に近いものとして考えることができ、かつ活動を繰り返しながら発達の段階に応じ系統的な内容を学習していくことから、「並行パターン」で構造化
- 高次の資質・能力について、小・中学校は、学校段階ごとに示す。高等学校は、音楽、美術、工芸、書道の各系統の学習内容の深化を図ることができるよう、それぞれのⅠ、Ⅱ、Ⅲで共通に示す

高次の資質・能力の考え方 【補足イメージ5：20～27ページ参照】

- 高次の資質・能力のあり方について、1（3）の改善の方向性や2（1）における資質・能力の整理を踏まえつつ、授業改善に資するよう、以下の考え方により整理する

<音楽>

- 知覚・感受したことをよりどころにして思考し、自分や他者にとっての表現や鑑賞の意味や価値を実感しながら、音楽表現や鑑賞を深められるようにすること（総合的な発揮／表現、鑑賞）
- 思いや意図をもって表現をするために必要な身体の使い方などの技能を身に付けられるようにすること（統合的な理解／表現）
- 児童生徒の個性や多様性を大切にし、実感を伴って理解できるようにすること（統合的な理解／表現、鑑賞）

<図画工作、美術、工芸>

- どのように思考、判断、表現していくのかを明確にしながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かしたり、意図に応じたりして表現できるようにすること（総合的な発揮／表現）
- どのように思考、判断、表現していくのかを明確にしながら、自分や他者、生活や社会における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を深めることができるようにすること（総合的な発揮／鑑賞）
- 「知識及び技能」を実感的に身に付け自分のものとし、場面や状況が変わっても働かせることができるようにすること（統合的な理解／表現、鑑賞）

<書道>

- 表現された作品や書、その美に対して社会や自分にとっての意味や価値を見だし、自らの価値意識を形成していけるようにすること（総合的な発揮／表現）
- 線質を追求したり、空間を捉えたり、呼吸を感じ取ったりするなど、身体機能や感覚を駆使し、目的や状況に応じて自在に活用できるようにすること（統合的な理解／表現）
- 作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができるよう、書の美に対する理解を基盤にしながら、作品や書のよさや美しさを読み取っていけるようにすること（統合的な理解／鑑賞）

- 補足イメージ5における高次の資質・能力の内容のイメージをもとに、とりまとめの趣旨を踏まえた分かりやすく使いやすい内容となるよう、引き続き検討

4. 内容の改善のあり方①

(1) 内容の充実について

芸術系教科・科目の系統性に応じた内容のあり方

- 芸術系教科・科目の内容のあり方については、1 (3) の改善の方向性を踏まえるとともに、以下の観点から改善を図る

<共通>

- 児童生徒が思いや意図をもったり、発想や構想をし工夫したりして表現する過程を一連のものとして捉えられるよう、「思考力、判断力、表現力等」を整理すること
- その際に活用する「知識及び技能」について、知識は一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考えることにつながるものであるとともに、技能は諸感覚を働かせつつ身体性を伴って思いや考えを表現したり鑑賞したりすることにつながるものとして整理すること

<音楽>

- 児童生徒一人一人の特性や関心に応じて、感性や身体感覚を働かせることを重視する観点から、「共通事項」の資質・能力における位置付けや文言を再整理すること
- 児童生徒が技能の必要性を感じたり、実感を伴って理解したりすることにつながるよう、知識と技能の関係性を明確にし、統合して一文で示すこと
- 歌唱や器楽において、様々な歌い方や楽器に適應できる技能として身体の使い方を重視すること（表現）
- 音楽づくり／創作の資質・能力を着実に高めていくことができるよう、小中高の系統性を明確にしたり、事項の文言を整理したりすること（表現）
- 区分を「歌唱・器楽」と示すことに伴い、歌唱と器楽に共通する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を統合して示すこと（小 表現）
- 授業のねらいや児童生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう、具体性の高い記述（八長調・イ短調など）について内容の取扱いへの移行を検討すること（小）

<図画工作、美術、工芸>

- 生活や社会とのつながりを意識した表現と鑑賞の関連が一層図られるよう、「共通事項」に造形の働きや、美術の働き、美術文化、工芸の伝統と文化に関する事項を示すこと
- 表現の活動において、創造的に表現することへつながる技能となるよう、材料や用具の特徴を生かして使うことや、表現方法を追求することを示すこと（表現）
- 鑑賞の活動の充実が図られるよう、美術作品などから特徴を見付けだしたり情報を読み取ったりすることなどの鑑賞に関する技能を示すこと（鑑賞）
- 一人一人の個性を生かしながら表現の可能性を広げていくことができるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用して発想や構想をしたり技能を働かせたりすることについて整理すること（表現）
- 表現を広げ深めることにつながるよう、多様なメディアと関わらせて発想や構想をすることや、メディア機器等の特性を生かすことができる技能を示すこと（高（芸術科美術、専門教科美術） 表現）

<書道>

- 「思考力、判断力、表現力等」において、書の表現性※を重視し、自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現することを示すこと（表現）
- ※「線質」、「字形」、「構成」等の複合的な働きにより生じる「変化」、「律動」、「性情」等を示すもの
- 鑑賞の活動の充実が図られるよう、作品や書などから読み取った情報を精査するなどの鑑賞に関する技能を示すこと（鑑賞）
 - 表現と鑑賞の関連が一層図られるように、「共通事項」において、書を構成する要素などの働きを示すこと

4. 内容の改善のあり方②

高等学校芸術科の内容のあり方【補足イメージ6：28ページ参照】

- 高等学校芸術科は音楽、美術、工芸、書道の中から科目を選択して履修するが、その学習内容は科目の専門に関する内容となっており、教科目標として目指す芸術との関わりが意識されにくい
- 芸術は高等学校芸術科に置かれた科目との関連以外にも多様な分野やジャンルにわたっている。卒業後に社会との関わりが一層大きくなる高等学校段階においてこそ、身近にある芸術、最新の技術と芸術の関係、芸術と社会の関係、個人と芸術の関係など、芸術との関連を意識した学びが重要となる
- このことを踏まえ、芸術そのものについて学ぶ機会を設けるなど、各科目の学びと芸術についての学びとを関連付けることにより、教科目標を実質的に達成し、生涯にわたり生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わっていくことができるよう、以下のとおり改善を図る
 - Iを付した科目（選択必修科目）の導入段階において、生徒が小・中学校における学びを踏まえ、芸術の全体像を捉えたり、学ぶことの意味や価値などについて考えたりする機会を設定することなど
 - 科目のまとめの段階などにおいて、芸術分野に関わる探究的な学習を設定するなど、生徒が各科目の学習で身に付けた資質・能力をもとに芸術の意味や価値を追求することなど
 - ✓ 意味や価値を追求する際には、自分や社会にとって芸術がどのような関わりをもつのかを重視し、芸術と関わりながら人生を豊かに生きていくという視点をもてるようにする
 - ✓ 小・中学校の学びを発展させ、高等学校段階で芸術の意味・価値を再認識する機会として、将来を見通して生徒が芸術文化との関わりを自覚できるようにする

伝統と文化に関する教育のあり方【参考資料1：42～43ページ参照】

＜期待されることと現状の課題＞

- 国際社会で活躍する日本人の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化を受けとめ、そのよさを継承・発展させるための教育の充実が期待される
- 各教科等の特質を踏まえ、教科等横断的な視点により、地域の実態や学校の特色等を生かした指導が行われている
- 芸術系教科・科目に関わる我が国や郷土の伝統や文化に対する児童生徒の興味や関心について、調査結果からは一定の成果は見られるものの、否定的な回答の割合も3割程度である。児童生徒が伝統や文化の意義を感じられるようすることについて一層の充実が課題である

＜改善の方向性＞

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、伝統と文化に関する教育の充実を図る
 - 芸術系教科・科目においては、伝統と文化を尊重し、その意義を実感できるよう、次のことを踏まえ改善充実を図ること
 - ✓ 「目標」、「高次の資質・能力」を踏まえ、学習指導要領の構造化の中で伝統や文化がもつ意味や価値の追求を通して、「深い学び」を実現すること
 - ✓ 「見方・考え方」において、物事を捉える視点として「文化」、教科固有の考え方・判断の仕方として「意味や価値を見いだすこと」などを明確化すること
 - ✓ 我が国の文化を理解することにより、多様な文化の理解や多様性の尊重につなげられるようにすること
 - ✓ 伝統や文化との関わりについて、小学校中学年までは生活と一体化し、高学年以降、徐々に物事を客観的に捉えられるようになっていくといった、発達の段階を踏まえること
 - ※ 伝統や文化に関する各教科等の特質を生かし、相互の適切な関連を図りながら、教科等横断的に教育課程を編成することは引き続き重要
 - 伝統や文化に関わり、本物に触れ心を動かす体験を通して、深まりのある学びの実現に資するよう、地域社会や文化施設、専門的な人材等との連携や協働を一層充実すること
 - 指導の改善充実に資するよう、学校現場への必要な支援を行うこと
 - ✓ 解説や教師用指導資料等において具体例を提示
 - ✓ 教師の指導力向上のための研修等の実施
 - ✓ 専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働を支援する事業の実施

4. 内容の改善のあり方③

メディア芸術や舞台芸術などの多様な芸術や文化に関する学びの充実のあり方【補足イメージ7：29～30ページ参照】

<期待されることと現状の課題>

- 多様な芸術や文化※に関する学びが、芸術系教科・科目の目標を実現する上で教科等に通底する「創造」の土壌となり、児童生徒がわくわくしながら多様な発想を生み出す深い学びにつなげていけるようにしていくことが必要である

※文化芸術基本法第8条から第12条までに示される、芸術、メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術）、伝統芸能、芸能などを含むもの

- また、マンガ、ゲーム、演劇、舞踊などを含む多様な芸術や文化を学ぶことは、様々な表現に触れる機会となり、自己の可能性に気付いたり、他者への共感を深めたりすることなどに資するものである。また、マンガ、ゲーム、演劇、舞踊などは児童生徒にとって身近なものであり、興味・関心を持ちやすく生活や社会の中の芸術や芸術文化との関わりを考える契機としやすいものである
- 多様な芸術や文化に関する学びについては、芸術系教科・科目の特質を生かした取組や、地域の実態等に応じて、学校の創意工夫を生かした教科等横断的な取組が行われている
- その際、教科との連携に関しては、国語における物語等の創作、音楽における創作表現、図画工作・美術における創造表現、体育・保健体育における身体表現などを生かしていくことが考えられる。このような、表現の多様性を実感できる機会の一層の充実が期待される

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、多様な芸術や文化に関する学びの充実を図ること
 - 様々な芸術分野を複合的に捉えていけるよう、芸術系教科・科目だけでなく、教育課程全体で充実を図ること

➢ 芸術系教科・科目においては、例えば、以下のような視点をもつこと

<音楽>

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

<図画工作、美術、工芸>

デジタル学習基盤を活用し、漫画、アニメーション、映像などの多様なメディアによる創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

<書道>

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

※多様なメディアについては、教科・科目の特性を踏まえ、マンガ、アニメーション、ゲーム、映像、映画などを発達の段階や授業のねらいに応じて取り扱う

➢ その際、効果的に取り組むために、例えば、以下のことに留意することが考えられる

- ✓ 児童生徒がそれぞれの表現のあり方を追求したり、共同して作品をつくり上げたりしていくことにより、表現の多様性や芸術などの本質を自分なりに実感できるようにすること
- ✓ 高等学校芸術科における共通の学びとして位置付け、芸術の全体像を捉えたり、芸術の意味や価値を追求したりすることなどに関わらせること
- ✓ 各教科等の特性や専門性を生かして教科等横断的に連携を図る際は、連携する教科・領域の目標の実現を図る教育活動となっていること
- ✓ メディア芸術に関わる学習においては、特別なソフトウェアを利用せずとも、撮影・記録、描画・加工などの基本機能を用いて、端末を有効活用した実践が進められることが望まれる

➢ 多様な芸術や文化に関わり、本物に触れ心を動かす体験を通して、深まりのある学びの実現に資するよう、地域社会や文化施設、専門的な人材等との連携や協働を一層充実すること

➢ 多様な芸術や文化に関わる指導の充実・支援や教育環境を整備すること

- ✓ 学習指導要領や解説、教師用指導資料等における記載の充実
- ✓ 専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働を支援する事業の実施
- ✓ 教師の研修機会等の充実

4. 内容の改善のあり方④

(2) 内容の精選について【補足イメージ8：31～38ページ参照】

精選の方向性

- 芸術系教科・科目は、題材や単元に取り組むことを繰り返しながら、資質・能力の定着を図り、「深い学び」を実現していくことに特性がある
- 指導計画の作成において、児童生徒の実態等を踏まえ、既習の内容を全て扱うのではなく目標の達成に支障のない範囲で精選するなど、題材や単元の構成の工夫を行うことができることを考慮しつつ、内容を精査することが必要

各教科等における内容の精選等

<音楽>

- 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、事項を精査することにより、授業のねらいや児童の実態に応じた柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善（小）
- 「鑑賞」において、記載が内容の取扱いと重複している部分を整理することにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善（中高）
- 自分でやってわかることを前提として、技能と知識を統合して一文で示すなどすることにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善
- 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、授業のねらいや児童生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

<図画工作、美術、工芸>

- 表現及び鑑賞の領域において育成する技能について、各区分に共通する材料や用具、表現方法などや、鑑賞の仕方などを考慮して示し、題材間の技能を相互に関連付け指導内容の重点化を図ることができるよう改善
- 鑑賞の技能について整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善
- 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することなどにより、授業のねらいや生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善（中）

<書道>

- 表現の各分野（漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書）及び鑑賞のそれぞれの事項において、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、〔共通事項〕において書を構成する要素などの働き・関係として指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善
- 鑑賞の技能を明確にするなど、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、生徒が価値意識を形成しながら書の美とその意味や価値を分析的に捉えることなどにつなげ、効果的な指導を行うことができるよう改善

創意工夫を生かした授業づくりに資する教科書の内容の精選等

- 高次の資質・能力などを踏まえながら、教科書に掲載されている教材等の中から教師が適切に選択したり参考にしったりして指導することができることを、教師が読み取りやすい構成が期待される

<音楽>

- 教師が「高次の資質・能力」を踏まえ、創意工夫を生かして柔軟に授業づくりができるようにする構成上の工夫
※小学校の例：一つの教材について歌唱又は器楽、さらには合唱奏で扱うなど、様々な学習活動ができるようにする

<図画工作、美術、工芸、書道>

- 造形的な特徴や造形の要素、書を構成する要素などを手掛かりに、技能を活用して能動的に鑑賞できるようにするとともに、表現と鑑賞との往還を促すような構成上の工夫

<高等学校芸術科のⅠを付した科目>

- 小・中学校における学びを踏まえ、文化や芸術の広がりや多様性、芸術が生活や社会に果たしている役割、芸術を学ぶ意味や価値など、芸術そのものについて考えることと、各科目の学びとを関連させることができるような構成上の工夫

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方①

外部人材、文化施設等や地域と連携した学習の充実

<期待されることと現状の課題> 【参考資料 2 : 44～50ページ参照】

- 伝統芸能や舞台芸術など文化芸術団体による公演、美術館等での鑑賞活動や、メディア芸術のクリエイター、アーティストなど外部人材との連携を通して、芸術を直接体験し本物に触れることは、豊かな感性や想像力、多様な価値感等の育成に資するものである
- また、地域資源を活かした表現・鑑賞の活動や、芸術系教科・科目での学びを地域課題の解決などに生かそうとする学習を通して、地域社会における文化を継承・発展・創造していく一員としての自覚、学びの広がりや本質の追求などにつながり、学ぶ意義を実感できるものである
- 外部の人の協力や学校外の施設等を活用した授業については、現状において学校や地域の実態等に応じた取組が行われているものの、芸術系教科・科目における調査では、小・中・高等学校を通して教師の肯定的な回答が半数に満たない実施状況となっている
- 連携の実態として、学校から地域への一方的な依存となっているものも見受けられるなど、学校が自律性をもち、児童生徒の資質・能力の育成と適切に関連付けた効果的な連携を図っていくことが課題である

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、外部人材、学校外の文化施設等や地域と連携した学習の充実を図る
 - 学びの場を地域に広げ、児童生徒が地域課題をより自分のこととして考え、学びの真正性を担保できるようにするなど、学校が地域と連携することの教育的な意義を明確化すること
 - 芸術系教科・科目が社会と学校、他教科等をつなぐ中心となり、教科等横断的な学習を通じて、地域・社会と児童生徒とのつながりが一層強められるようにすること
 - 保護者、PTA、地域の人々や、身近な教育資源から、より広い文化や芸術へ広がりをもたせていけるように、無理なく地域の人的・物的資源を活用できるようにしていくこと

- 地域（学校運営協議会を含む）との連携による環境整備を推進したり、コーディネーター的な役割を担う人材を配置したりするなど、行政が学校と地域の連携を促進していくこと
- 専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働を支援する事業など、国などが学校に必要な支援を行っていくこと

他教科等と連携した学習の充実

<期待されることと現状の課題>

- 芸術系教科・科目で育む資質・能力を他教科等の学びとつなげることにより、想像力、試行錯誤する力、自ら問いを立てる力、答えのない問いに最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力など、様々な資質・能力を育成する場面となり得る
- このような学びは、芸術と他の分野とのつながり、既存の枠組みを超える思考に生かされ得るものという、STEAM教育の考え方にも通じるものとして、児童生徒が学習に主体的に向き合えるようにしていくことが重要である
- 教科等が連携した学習のねらいを各教科・科目の担当教員間で共通理解を図ることについて課題がある

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえつつ、伝統と文化に関する教育、多様な芸術や文化に関する学びの充実などを見据え、以下の方向性により、芸術系教科・科目と他教科等を連携した学習を通じて、学校での学びと社会とのつながりへの意識を高め、児童生徒の豊かな学びの実現を図る
 - 芸術系教科・科目が育む感性や想像力等を働かせた創造的な活動を通して、他教科等と連携し、社会と学校をつなげていくこと
 - 他教科等との連携において、育成を目指す資質・能力について関係教科等の教師間で共通理解を図ること
 - 児童生徒の実態や学校教育目標等を踏まえた各校のねらいの達成に向け、カリキュラム・マネジメントの充実の視点から、芸術系教科・科目の学びを生かした教育課程の編成や環境整備等を重視すること

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方②

デジタル学習基盤を活用した学習の充実

＜期待されることと現状の課題＞ 【補足イメージ9：39～41ページ参照】

- デジタル学習基盤の特性を効果的に活用することは、「知識及び技能」を習得することや、主体的に学習に取り組むこと、自らの思考を広げたり深めたりすることに資するものである
- GIGAスクール構想により1人1台端末が整備され、芸術系教科・科目においてデジタル学習基盤を活用した取組が行われているが、デジタル学習基盤を効果的に活用し、身体などを用いた表現活動との調和を図りながら、深い学びにつなげることについて課題が見られる

＜改善の方向性＞

- 現状の課題を踏まえ、芸術系教科・科目及び多様な芸術や文化に関する学習の充実には、以下の方向性により、デジタル学習基盤の効果的な活用を図る
 - 身体性を基本とする人間の本来の能力としての技能の重視を前提とした上で、デジタル学習基盤の適切な活用が、感性や創造性の涵養に資するとともに、学習指導要領の構造化を踏まえた「深い学び」を実現できるようにすること
 - ✓ デジタル学習基盤の適切な活用においては生成AIを含むこととするが、安易に表現する過程などを生成AIに委ねるのではなく、発達の段階を考慮しつつ芸術系教科・科目における資質・能力の育成に寄与するよう配慮することを前提とする
 - ✓ 鑑賞活動における作品等の比較、意見共有、遠隔での交流や、表現活動における思考、判断し、表現する過程での試行錯誤や記録・保存など、デジタル学習基盤の特性を生かした活用が望まれる
 - ✓ 児童生徒がアーティストやクリエイターによるデジタル技術を活用した多様な表現や、新たな価値を生み出す創造的な取組に触れて学ぶことは、創造的に考えたり、表現の楽しさを実感したりすることにつながる
 - 児童生徒の特性等に応じた学び方や共通の学びの土台となるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用し、協働的な学びと探究的な学びの充実を図り、多様性の包摂に資するようにしていくこと
 - 児童生徒が芸術に関する様々なコンテンツに接する機会が多いことなどを踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じて、知的財産の保護と活用などに関する指導を充実すること

学習評価の改善充実

＜現状の課題＞

- 芸術系教科・科目においては短時間の題材や単元を行う場合、資質・能力の3つの柱全てについて評価をしようとすると、総括的評価が優先され記録に残す評価のみを行うといった実態が見受けられる
- 思いや意図（表現意図）をもつことと、それを音楽表現することの評価が児童生徒の学習の流れと必ずしも合っていないという課題や、制作の過程での評価が難しく完成作品のみから技能や思考・判断・表現の評価を行う現状などが見受けられる

＜改善の方向性＞

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、学習評価の改善充実を図る
 - 題材や単元ごとに全ての観点で記録に残す総括的評価を行うという前提に立つのではなく、学校等の実態に応じて年間指導計画を踏まえた上で、複数の題材や単元、区分でまとめて総括的評価を行うことも可能であることを促す
 - 児童生徒一人一人が着実に資質・能力を身に付けることができるよう、学習の調整等を促す形成的評価を重視する
 - 「思考・判断・表現」の総括的評価を行う場合においては、思いや意図をもって歌唱や演奏をしたり、発想や構想をし工夫して作品等に表したりするなどの学習の過程の中で児童生徒の姿を捉える
 - 多様な児童生徒一人一人のよさや成長を捉え、他者との比較ではなく肯定的に評価できるようにすることを重視する
- ※ 資質・能力の確実な育成を図る上で、学習の過程における形成的評価を通して、評価を指導の改善に生かし、児童生徒一人一人の学びの状況や変容を丁寧に捉えフィードバックするための効果的な方法については、今後の更なる検討が望まれる

芸術系教科・科目の改善の方向性等

現状の課題

- 正解のない問いや予測困難な課題に対処できる力、身体性を基本とする技能について育成すること
- 芸術系教科・科目の学びの意義について、児童生徒が十分に実感できるようにすること
- 思いや考えを身体を用いて具現化し、新たなものやことをつくりだしていくという学びの充実を図ること

文化芸術教育への期待

文化芸術は人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉となるもの

- 多様な文化を理解しながら芸術と自分との関わりを考えていくこと
- 感性和知性の両輪を働かせ意味や価値を見いだしたりつくりだしたりすること、情操を涵養すること、感性や想像力を大切にすること
- 身体性を重視し、諸感覚を働かせて対象に向き合うこと。一人一人の特性を生かした学びを、多様性の包摂につなげ、ウェルビーイングへとつなげていくこと
- 異なる分野を連携・統合し新しいものを創造したり、現在の課題解決にとどまらず未来に向かって意味や価値を創出したりすること

改善の方向性（総論）

- ① 捉えたり感じたりしたことを、**要素や特徴、背景にある文化など**との関わりで理解したり、思考、判断、表現したりできるようにする
※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素
- ② 表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という**自分の思いや考えをもつこと**と、諸感覚を働かせつつ**身体性を伴った技能**により表現することを、一連の過程として重視する
- ③ 表現及び鑑賞の学習において、心が動く体験を大切に、唯一の答えに導くのではなく、**児童生徒一人一人のありようが尊重**されるようにする
- ④ 感じたことや工夫したことを伝え合うなどの言語活動等や他者とともに協働する学習を通じて、**他者に共感し感じ方や考え方を深めたり、多様な視点で考えたりする**ことができるようにする
- ⑤ 生活や社会の中の芸術や芸術文化などに関わり、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることなどを重視し、**豊かな社会の創造や幸福な人生**につなげていくことができるようにする

文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

- ・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%
- ・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

目標・柱書	
小学校音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校音楽	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
中学校音楽	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術（音楽Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅲ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅱ	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅲ	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化に関わりそれらを尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

小・中・高等学校 図画工作、美術、工芸の目標等について＜改善案＞

目標・柱書

補足イメージ2

小学校図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に造形的な創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
高等学校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

小学校図画工作 中学校美術 高等学校芸術 (美術Ⅰ・工芸Ⅰ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅲ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術や美術文化に関わりそれらを尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
美術Ⅰ、美術Ⅱ、美術Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅱ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅲ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
書道Ⅰ	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅰ	書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅱ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅲ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

- ◆教科の系統（音楽／図画工作、美術、工芸／書道）ごとに、小・中・高等学校を通して文言を統一
- ◆「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであることから、芸術系教科・科目に共通して重視することとし、教科の特性を踏まえ、感性や想像力を働かせることを示す
- ◆文化を継承し発展することを一層重視していくため、文化に関する視点を共通に含めつつ教科の特性を考慮して示す
- ◆芸術の本質的意義である創造性を重視し、意味や価値を追求することを示し、豊かな社会の創造や幸福な人生につながる教育の充実に資するようにしていく

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術 (音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
小学校図画工作 中学校美術 高校芸術 (美術Ⅰ～Ⅲ ・ 工芸Ⅰ～Ⅲ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

小学校の例

A 表現	区分	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	第1学年及び第2学年相当	第3学年及び第4学年相当	第5学年及び第6学年相当
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
①	区分	知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
②	区分	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
B 鑑賞	区分	知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
①	区分	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
②	区分	知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXX	[共通事項] 1) 2)	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX
				•XXXXXXXX	•XXXXXXXX	•XXXXXXXX

活動を繰り返しながら発達の段階に応じ系統的な内容を学習していく

「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを支える構造

系統的に育成する資質・能力を明確にするため、活動に即して「表現」及び「鑑賞」の2つの領域に整理
音楽、図画工作、美術、工芸では、教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、教師が想定しやすいと考えられる内容のまとまりとして区分を設定

「並行パターン」で構造化

音楽（小学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例	
思考力、 判断力、 表現力等	表現	歌唱・器楽	総合的な 発揮	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		音楽づくり		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること - 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
	鑑賞			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと
知識及び 技能	表現	歌唱・器楽	統合的な 理解	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 歌い方による声の音色などの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること - 歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること など
		音楽づくり		音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること - 音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること
	鑑賞			音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

音楽（中学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
	鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
知識及び技能	表現	歌唱	曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		器楽	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		創作	音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
	鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽））

音楽（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
		器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
		創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
	鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと
知識及び技能	表現	歌唱	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を生かした歌い方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		器楽	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 様々な表現形態による器楽表現の特徴を生かした演奏の仕方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		創作	音や音同士の関係の特徴などを生かした音のつながりや重なりを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音型の特徴や構成上の特徴を生かした音楽のつくりかたについて、知識及び技能を関わらせて身に付けること
	鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や価値などを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて、知識を身に付けること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

図画工作

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と材料や場所（仮）	総合的な発揮	- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		自分と表したいこと（仮）		- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
	鑑賞		作品などとの関わりから、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と材料や場所（仮）	統合的な理解	- 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
		自分と表したいこと（仮）		- 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	鑑賞		作品などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

美術（中学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、構想を練り、工夫して表現すること
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出し、調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから美術作品などを見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	目的や条件、機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕 - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術））

美術（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成し、構想を練り、工夫して表現すること
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や条件、意図や機能などを考え、主題を生成し、構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸））

工芸（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をし、制作の構想を練り、工夫して表現すること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をし、制作の構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、生活における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、社会における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
	鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

書道（高等学校芸術科）

	領域	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	総合的な発揮	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる - 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること - 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	鑑賞		書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる - 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること - 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと
知識及び技能	表現	統合的な理解	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している - 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 - 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること - 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
	鑑賞		書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から多様な情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している - 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 - 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること - 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

1. 想定される内容例

◆芸術とは（芸術の分野・ジャンル）、芸術の歴史

- どのような芸術があるか：音楽、美術、工芸、書道、文学、舞踊、演劇、建築、服飾、映画、写真など
- 身近にある芸術を考える（アニメーション・映画・音楽など）
- 芸術はどのように変わってきたか／時代・場所を超えて芸術はどう異なるか

◆芸術と社会

- 芸術同士が刺激し合う？：芸術が影響し合うことによる変化や進化
- 総合芸術の広がり：オペラ、ミュージカル、歌舞伎、映画など
- 芸術は社会とどのようにつながることができるか？：芸術とアイデンティティ
- 芸術家だけじゃない芸術の仕事：芸術を支える人たち
- 表現の自由と責任／著作権、知的財産権
- 芸術が生活や社会の中で果たす役割

◆現代の芸術とテクノロジーやメディア

- 科学、テクノロジーの発展によって、芸術はどう変わったか／どう変わるか
- メディアと新しい芸術表現（デジタルアートやアニメーション）

◆自分にとっての芸術

- どのような表現をしていきたいと考えるか
- 芸術はなぜ必要なのか

※これらの事例はイメージであり、生徒の興味・関心等に応じ教科書や学校現場における創意工夫を期待。

2. 芸術そのものについて学ぶ機会の設定

○実施形態、方法、時期等について

- 実施の形態については、科目ごとに行ったり、複数科目を合同で行ったりするなど、学校の実態に応じて工夫して行う
- 実施の方法については、映像資料や教科書等を活用したり、体験的な活動などを取り入れたりすることが考えられる
- 科目のまとめの段階における実施の時期については、学校の実態等に応じて適切に設定する

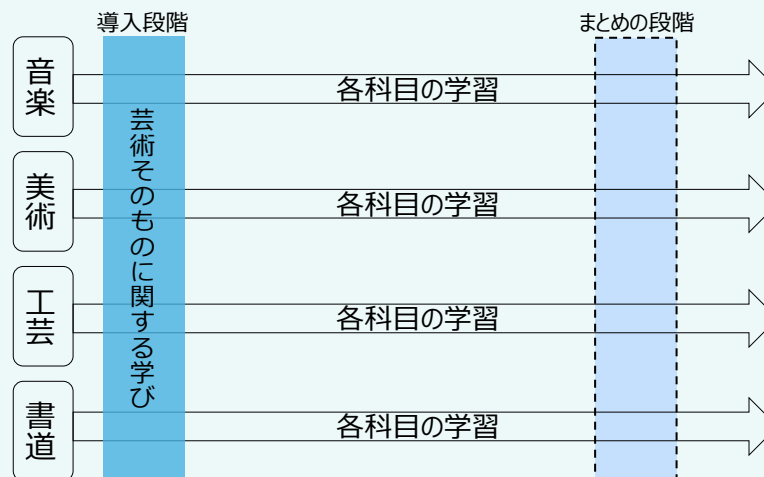
○授業における取り上げ方の例

I を付した科目（選択必修科目）の導入段階

- 芸術分野についての分類図を作成し、生徒が様々な芸術の分野やジャンルの共通点を見つけたり、各分野における固有の表現方法について考えたりする
- 「人間にとって芸術がなぜ必要か」についてグループで意見を交わし合い、生活や社会の中で芸術が果たす役割について考える
- 映画や舞台芸術などの一部を鑑賞し、各自が選択している科目の視点から作品のよさなどを発表し合いながら、複数の芸術分野やジャンルが融合して生まれる表現の面白さを味わう

科目のまとめの段階

- 各科目を履修した生徒で合同チームをつくり、ひとつのテーマに基づき、それぞれの表現の特徴を生かした作品などを考え、つくり、発表する
- 学んだことを生かして、他の分野や分野を超えた連携を追求し、芸術によって社会にどのように貢献できるかを考える
- 「今は存在しない」が「いつか生まれたら面白い」と思う新たな芸術分野やジャンルについてアイデアを出し合い、芸術の可能性や発展について考える



舞台芸術に関する取組イメージ

小学校
6年生

音楽劇を通して郷土の音楽を引き継ぐ

学習のねらい

音楽

総合的な学習の時間

【音楽】郷土の民謡の特徴にふさわしい歌い方を工夫して歌う。
【総合的な学習の時間】地域の治水事業に携わった人々の苦労や喜び、思いや願いについて考え、音楽劇を通じて表現する。

取組内容

※国語科とも関連

・総合的な学習の時間で、地域の歴史や文化を伝えていくための課題を設定し、地域の資料館を訪問するなどして治水について情報収集した。集めた情報を基に、土地の恵みを生かすための治水事業に取り組む人々の思いや、そこで唄われた作業唄などについて整理し、まとめるなどの取組を行った。

・音楽では、郷土に伝わる河川工事の際に歌われた仕事唄の歌詞や仕事の様子から、仕事の大変さに思いを寄せ、作業の動きに合わせて歌った。郷土のよさを取り入れ国語の授業での俳句づくりを基に七五調でつくったオリジナルの歌詞も取り入れた。

・総合的な学習の時間で、治水事業に携わる人々の思いをどう表現するかを考え、音楽科や国語科で学習した仕事唄を取り入れた音楽劇を制作して演じた。



取組成果

郷土の文化や先人の努力への理解を深めるとともに、地域への愛着をもつことにつながった。また、互いのよさを生かしつつ、協働してつくりあげることの意義を実感することができた。

メディア芸術に関する取組イメージ

中学校
2年生

漫画で伝えよう ～学校紹介漫画の制作～

学習のねらい

美術

特別活動

【美術】伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさなどを考え構想を練り、表現方法を追求し創造的に表す。

【特別活動】小学校6年生に向けた学校説明会で、生徒が説明の計画を立て役割を分担し、協力して運営することに主体的、実践的に取り組む。

取組内容

・美術では、構図、形や色彩などの効果を考えながら、中学校の行事や部活動、生活等の様子を、翌年入学する小学校6年生に向けて、分かりやすく楽しく伝える漫画を制作した。

・特別活動では、小学校6年生を中学校に招く説明会の中で生徒会が中学校を紹介する内容について計画を立て、その際、制作した漫画も活用して中学校生活の魅力を紹介した。



取組成果

他者や社会に形や色彩などを用いて分かりやすく伝えるという、生活や社会の中での美術の働きなどについて考えることができた。また、美術で制作した漫画を活用することで、中学校の学校行事等を説明することへの意欲が高まり、主体的、実践的に取り組むことができた。

多様な芸術や文化に関する学びの充実について（各教科・科目における改善の方向性）

補足イメージ7

改善の基本的な方向性

改善の視点（イメージ）

音楽

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

図画工作・美術・工芸

デジタル学習基盤を活用し、多様なメディア※による創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

書道

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

音楽

- ・多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、何を伝えるかを明確にした音楽づくり・創作の学習活動の充実（デジタル学習基盤の活用を含む）（小、中、高）
- ・ダンスなどの身体表現や映像などのメディアを用いた表現など様々な芸術表現等への活用を視野に入れた、音楽を形づくっている要素や音楽の特徴について実感を伴って捉える学習活動の充実（体を動かす活動を含む）（小、中、高）

図画工作・美術・工芸

- ・多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、想像力を豊かに働かせて新たなものやことをつくり出す学習活動の充実（小図、中美、高美工）
- ・児童生徒の作品などについて、デジタル学習基盤を活用して発表や展示を行ったり、発信・交流したりする機会の充実（小図、中美、高美工）
- ・地域や学校の実態に応じ、デジタル学習基盤を活用して、映像やアニメーションなどに表すことを通して豊かに発想や構想をすることにつながる学習の充実（小図）
- ・表現の特質や効果を感じ取ることと、表現することを相互に関連させ、創造の可能性を広げることにつながる、多様なメディアを活用した表現や鑑賞の活動の充実（中美）
- ・多様なメディアと関わらせ、豊かに主題を生成することや、夢のある発想をすることにつながる学習の充実（高美、専美）
- ・メディア機器等の特性を生かして表現するための技能を明確化した学習の充実（高美）
- ・多様なメディアを活用して、異なる分野を連携・統合させた表現の追求（高美、専美）

書道

- ・多様な芸術等との組み合わせを視野に入れ、他教科等との関連を意識して総合的な表現の中で生かすことができるような、書道の表現の過程での時間性や運動性等の特質・特性に係る学習活動の充実
- ・映像などメディアの機能を生かした様々な芸術表現へ生かすことができる、書道の特質・特性に焦点を当てた表現や発表、展示の方法を工夫する学習活動の充実

小図：小学校図画工作、中美：中学校美術、高美：高等学校芸術科（美術）、高工：高等学校芸術科（工芸）、専美：高等学校専門教科（美術）

(小学校音楽科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A	歌唱・器楽表現		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範唱を聴いたり、 <u>ハ長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして歌う技能 (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (イ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能 ②
			(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
	音楽づくり	思	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をにふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ア)と(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) <u>多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</u> ②
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範奏を聴いたり、 <u>ハ長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (イ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
			(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)と(イ)をできるようにすること。 (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
	鑑賞	知	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解すること。 (ア) <u>いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</u> (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ②
		技	ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) <u>設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</u> (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
			(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B	鑑賞	思	ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
		知	イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
(共通事項)		思	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと結びつけたこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

改善のイメージ (案)

A	歌唱・器楽表現		歌唱及び器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		知	イ 次の(ア)から(イ)までにに関する知識及び(身体の使用方の)技能を身に付けること (ア)歌い方による声の音色などの違いや変化 (イ)演奏の仕方による楽器の音色などの違いや変化 (イ)歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化 (イ)範唱や範奏を聴いたり、楽譜等を見たりして、曲や歌い方、演奏の仕方などの特徴を捉える ②
			音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	音楽づくり	思	ア 設定した条件に基づいて、次の(ア)と(イ)をできるようにすること (ア)即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること (イ)どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
		知	イ 次の(ア)及び(イ)に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること (ア)音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化 (イ)全体の響きの特徴と、音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方との関わり ②
		技	
			鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	鑑賞	思	ア 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと
		知	イ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
(共通事項)		思	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること イ 次の(ア)及び(イ)に関する知識及び技能を身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音符、休符、音楽に関する記号や用語について、それらの音楽における働きを捉えること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、事項を精査することにより、授業のねらいや児童の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善
- ② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、学校等の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

(中学校音楽科第1学年の例)

現行の構成

A 表 現	歌 唱	(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
	器 楽	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
		(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
	創 作	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
		(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
B 鑑 賞	歌 唱	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
		ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
		(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	器 楽	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性や固有性
		イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
		(2) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	創 作	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
		イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	歌 唱	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方
	器 楽	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方
	創 作	創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせて表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方 (イ) 反復、変化、対照などの手法を用いた音楽のつくり方
B 鑑 賞	歌 唱	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと (ア) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性と固有性
		イ 次の(ア)から(イ)までについての知識を身に付けること (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
	器 楽	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
	創 作	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
(共通事項)	歌 唱	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
	器 楽	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
	創 作	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
	(共通事項)	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項を整理することにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科 (音楽 I) の例)

現行の構成

A	表現	知	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 歌唱
		技	歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
		知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり
		技	(イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
		知	ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
			(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
B	鑑賞	知	(イ) 他者との調和を意識して歌う技能
			(ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能
		技	(2) 器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
		技	(ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり
			(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
		知	(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴
			ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
C	創作	知	(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能
			(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能
		技	(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能
			(3) 創作
		知	創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
		技	イ 音楽素材 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
			ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
		知	(ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能
			(イ) 旋律をつくり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくり出す技能

改善のイメージ (案)

A	表現	知	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 歌唱
		技	歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
		知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わりさせて身に付けること
			(ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方
		技	(イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を生かした歌い方
		知	(2) 器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B	鑑賞	知	ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わりさせて身に付けること
		技	(ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方
			(イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方
		知	(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴を生かした演奏の仕方
			(3) 創作
		技	創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
		知	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりさせて身に付けること
			(ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方
C	創作	知	(イ) 音型の特徴や構成上の特徴を生かした音楽のつくり方
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		技	(1) 鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながら、よさや美しさなどを自ら味わって聴くこと
			(ア) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
		技	(イ) 音楽表現の共通性と固有性
			イ 次の(ア)から(ウ)までについての知識を身に付けること
		知	(ア) 曲想と音楽の構造との関わり
			(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項を整理することにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ② 自分でやってわかる (理解する) ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ④ 生徒がつくった旋律に限らず、既成の旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくるなど、生徒の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

(小学校図画工作科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A 表 現	思	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴などを基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
	技	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくこと。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
〔共通事項〕		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
	思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	自分と材料や場所 思	(1) 表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		技 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	自分と表した 思	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付け主題へと高め、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
		技 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
		技 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などから表現の特徴や表し方の変化などを見付けだすこと
〔共通事項〕		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
	知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解すること
	思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 各区分に共通する材料や用具の扱い、表現方法などを考慮して示し、技能を相互に関連付け指導内容の重点化を図ることができるよう改善
- ② 鑑賞の技能について整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

(中学校美術科第 1 学年の例)

現行の構成

A 表 現	思	(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。 ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
		イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。 (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。 (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。
		(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。 ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。 (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。
	鑑 賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。		
(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。		

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現	美術 自分と 美術	思	表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
			対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩など、想像したことなどを基に主題を生み出し、意図に応じた構成などについて考えながら心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
		技	材料や用具を生かし、表現方法を追求すること	
			材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	
	生活や社会と 美術	思	目的や条件、意図などを基に、身近な生活との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた美しさなどを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
			伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
			使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
		技	材料や用具を生かし、表現方法を追求すること	
			材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	
B 鑑賞	美術 自分と 美術	思	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
			美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること	
		技	美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること	
	生活や社会と 美術	思	美術作品などの目的や条件、意図や機能などの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること	
			技	美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること
		共通事項	知	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。
				形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
				造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること
生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること				
		身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などの美術文化について理解すること		

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することなどにより、授業のねらいや生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科（美術Ⅰ）の例)

現行の構成

A 表 現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 絵画・彫刻 絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (7) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (4) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。
		(2) デザイン デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (7) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (4) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。
		(3) 映像メディア表現 映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (7) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (4) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。
B 鑑 賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (9) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。
	技	イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。
		表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

改善のイメージ（案）

A 表 現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創意工夫して創造的に表現すること
	技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること
		(2) デザイン デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 目的や条件、意図や美しさなどを考え、主題を生成し、機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること
	技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること
		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること
	技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
		美術作品などの目的や条件、意図との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、社会との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること
		美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
B 鑑 賞		表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		造形の要素の働きを理解すること 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 環境の中に見られる自然と美術の関わりや、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解すること 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などの美意識や創造性、日本の美術の歴史や表現の特質などの美術文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 「鑑賞」のAは(ア)～(ウ)を2つにまとめ、創意工夫を生かした効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科（工芸 I）の例)

現行の構成

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 身近な生活と工芸 身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想 (ア) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。 (イ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。
		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
	思	(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 社会的な視点に立った発想や構想 (ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。 (イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
	B 鑑 賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑 賞	思	ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 身近な生活の視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 社会的な視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。
		イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	ア 造形の要素の働きを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。
	知	
	知	

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をし、用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練り、創意工夫して創造的に表現すること
		制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること
	技	材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること
	思	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし、社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練り、創意工夫して創造的に表現すること
	技	制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること
		材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること
B 鑑 賞	思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、身近な生活と工芸との関係から作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	思	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		工芸作品のよさや美しさを感じ取り、社会や環境との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
	技	工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(共通事項)	知	造形の要素の働きを理解すること
		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること
	知	環境の中に見られる自然と工芸の関わりや、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて理解すること
		工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識、創造性など、工芸の伝統と文化について理解すること
	知	
	知	
	知	

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科(書道Ⅰ)の例)

現行の構成

A	表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて構想し工夫すること。
			(ア)漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ①
			(イ)目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
		技	(ウ)名筆を生かした表現や現代に生きる表現
			イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
			(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
			(イ)名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
		技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
			(ア)目的や用途に即した効果的な表現
			(イ)漢字と仮名の調和した線質による表現
		思	(2) 漢字の書
			漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
B	鑑賞	思	(ア)古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ①
			(イ)意図に基づいた表現
		知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
			(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
			(イ)書体や書風と用筆・運筆との関わり
		技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
			(ア)古典に基づく基本的な用筆・運筆
			(イ)古典の線質、字形や構成を生かした表現
		思	(3) 仮名の書
			仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
		知	(ア)古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ①
			(イ)意図に基づいた表現
		技	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
			(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
			(イ)線質や書風と用筆・運筆との関わり
C	共通事項	思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のおもしろさや美しさを味わって捉えること。
			(ア)作品の価値とその根拠 ②
			(イ)生活や社会における書の効果
		技	イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。
			(ア)線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ①
			(イ)日本及び中国等の文字と書文化
		思	(ウ)漢字の書体の変遷、仮名の成立等
			(イ)書文化の伝統的な鑑賞の方法や形態 ②
			(イ)書文化の鑑賞の方法や形態 ②
		知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。
		技	イ 書文化の鑑賞の方法や形態 ②
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態 ②
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態 ②

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ(案)

A	表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 生活や社会における目的や用途、自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
			(ウ) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技	(ア) 用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			漢字の書
			漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
			(ウ) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技	(ア) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			仮名の書
			仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
			(ウ) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技	(ア) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
B	鑑賞	思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書とその美の意味や価値について考えること
			(イ) 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			(ウ) 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
		技	(ア) 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			(イ) 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			(ウ) 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
		思	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
		知	イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
		技	イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること
			イ 書文化の鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 各分野(漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書)及び鑑賞のそれぞれにおいて、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、「共通事項」において書文化を構成する要素などとして指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、生徒が価値意識を形成しながら書文化の意味や価値を分析的に捉えることなどにつなげ、効果的な指導を行うことができるよう改善

音楽の例

< 改善の方向性（案） >

- ・児童生徒が様々な感覚を働かせて、音楽への理解を深めるだけでなく、思考・判断し表現することにつながるようにデジタル学習基盤を効果的に活用できるようにしていくこと
- ・発達の段階に応じて、音楽文化への理解につなげていくこと

< 活用イメージ >

小学校音楽	中学校音楽	高等学校芸術（音楽）
● リコーダーのタンギングを可視化して確認し、音色と演奏の仕方との関わりに気付く【器楽】 ● 鑑賞曲の速度を変化させて聴き比べ、速度による曲想の変化を確かめ、作曲家の表現の工夫を考える【鑑賞】 ● 端末で自分の担当するパートの音を消した音源を聴き、パートの役割を考える【器楽】	● 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、技能の習得状況を確認したり課題を自覚したりする【歌唱、器楽】 ● 自分が課題としている技能について、範唱・範奏の音源や動画を視聴して解決の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、実際に音で確かめながら、音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる【創作】 ● 音楽室と外部の人や団体、施設などをつなぎ、郷土の伝統音楽をオンラインで一緒に表現したり、鑑賞したりする【歌唱、器楽、鑑賞】	● 「響く声」「柔らかい音」など、慣用的に用いる声や音を表す言語について、可視化したり数値化したりして、その性質を捉え、自分の声や楽器の音と比較しながら、技能習得の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、音色を様々に変えながら、楽器の組合せによる響きの違いを聴き比べ、音素材の特徴を生かした音楽をつくる【創作】 ● 配信された音源や動画などを視聴し、複数の国や地域の諸民族の音楽を聴き比べ、生活や社会における役割や、表現上の効果の共通性及び固有性について考えながら音楽を聴き深める【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

図画工作、美術、工芸の例

< 改善の方角性（案） >

- ・デジタル学習基盤の特性を生かした活用を図ることにより、豊かな創造性を育み、表現や鑑賞の活動を充実させ、資質・能力を効果的に育成できるようにすること。その際、教科・科目の特性を踏まえた文化への理解につなげていくこと
- ・鑑賞の活動においては、多様な見方や感じ方に触れたり、それらを深めたりする学びを支えるため、デジタル学習基盤の効果的な活用を一層工夫していくこと

< 活用イメージ >

小学校図画工作	中学校美術	高等学校芸術（美術）
● 場所や空間をどのように変化させていくかを考えながら、動く映像をつくり、プロジェクターで投影するなどして、活動を工夫してつくる（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【表現】 ● 材料や用具について、画像や動画などからこれまでの経験を振り返ったり、使い方を確かめたりして、特徴を生かして使う（知識及び技能）【表現】 ● 作品を展示する場所を自分で選び、見る方向や作品と周りにあるものとの関係を考えて撮影し、友人と互いに見合ったり、話し合ったりして、自分の見方や感じ方を深める（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】 ● 活動の過程を撮影し、整理・蓄積したファイル等を基に自分の学びを振り返り、次の学習につなげようとする（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	● ポスターのアイデアスケッチをタッチペンを使って画面上で作成し、途中段階を相互鑑賞し、その後、アイデアを修正することで、発想や構想を深める（思考力、判断力、表現力等）【表現】 ● 制作した動物や人などを動かして撮影し、アニメーションに表し、何度も試し活動することで、光や動勢などで捉えることを理解する（知識及び技能）【表現】 ● 美術館などで公開しているデジタルコンテンツを利用し、日本と諸外国の美術作品を拡大・縮小したり、並べて比較したりして鑑賞し、美術文化の背景などを踏まえ、相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】 ● 活動の過程を振り返ったり、鑑賞で感じ取ったり考えたりしたことを共有するなどして、学習を主体的に調整する（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	● 映像や音、光、文字などの映像メディア表現の要素を複合的に用い、総合的な表現効果を考え、意図や動きに合わせ変形させたり特殊効果などを活用したりして表現方法を追求する（知識及び技能）【表現】 ● 日本及び諸外国の美術作品の複数の画像を比較して鑑賞し、美術文化の文脈などを踏まえ、表現の相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】
		高等学校芸術（工芸）
		● 3Dソフトを用いて器のアイデアを考えたり、作成中の器を撮影し画面上で色を試し釉薬のかかった状態を確認したりするなどして発想や構想を深める（思考力、表現力、判断力等）【表現】 ● 作者や作品の背景にある社会や時代などを調べたり、美術館などで公開している工芸作品の拡大画像を見たりして、作品、素材や技法、作者についての心情や意図について考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】

書道の例

< 改善の方向性（案） >

- ・デジタル学習基盤の特性を生かして活用することにより、書特有の視点をもって多様な書の美を捉え、自ら学びを深めることにつなげる
- ・書の伝統と文化への理解を深められるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用すること

< 活用イメージ >

小学校・中学校	高等学校芸術（書道）
小中学校において培われる デジタル学習基盤の活用能力	● 撮影・録画機能を活用し、長い期間での思考の変化や構想・工夫の過程を振り返ったり、適切なタイミング、適切な方法で効果的に活用したりすることにより、生徒自ら学びを深め、個別最適で多様な学びを実現することにつなげる【表現、鑑賞】 ● 検索・参照できる機能を活用し、自身の学びを調整することにより、多様な技能を習得・習熟することや、豊かに構想・工夫し表現することにつなげる【表現】 ● 美術館・博物館等のデジタルアーカイブや各種動画を活用し、書の表現性や表現効果等に関わる一回性や呼吸、空間意識といった視点から、書の美の多様さに触れ味わうとともに、書の伝統と文化への理解を深めることにつなげる【鑑賞】

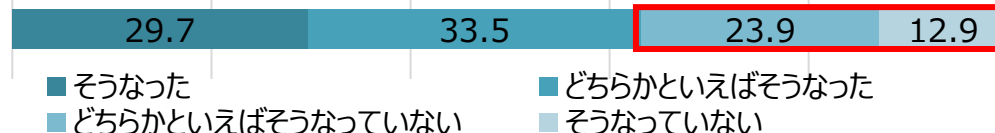
※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

- ✓ 音楽科（小学校）において、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつことについて、一定の成果は見られるものの、児童の3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 質問項目は異なるものの、我が国や郷土の音楽に対する児童生徒の興味・関心のもちやすさに関する教師の捉えについて、小、中、高等学校へと学校段階が進むにつれて、否定的な回答が増加する傾向がみられる。

音楽科・芸術科（音楽 I）

小学校 児童
音楽の学習をして、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつようになった

第6学年
※1



【児童・生徒の学習状況等について】

小学校 教師
我が国の音楽や郷土の音楽に親しみ、よさを味わったり、愛着をもったりすること

第2学年
※2,4



第4学年
※2,4



第6学年
※3,4



中学校 教師
我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解すること

第3学年
※3



高等学校 教師
鑑賞の学習において、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解すること

第2学年
※3,※5



※1 各選択肢を選んだ児童の割合 (%) (重み付き)

※2 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

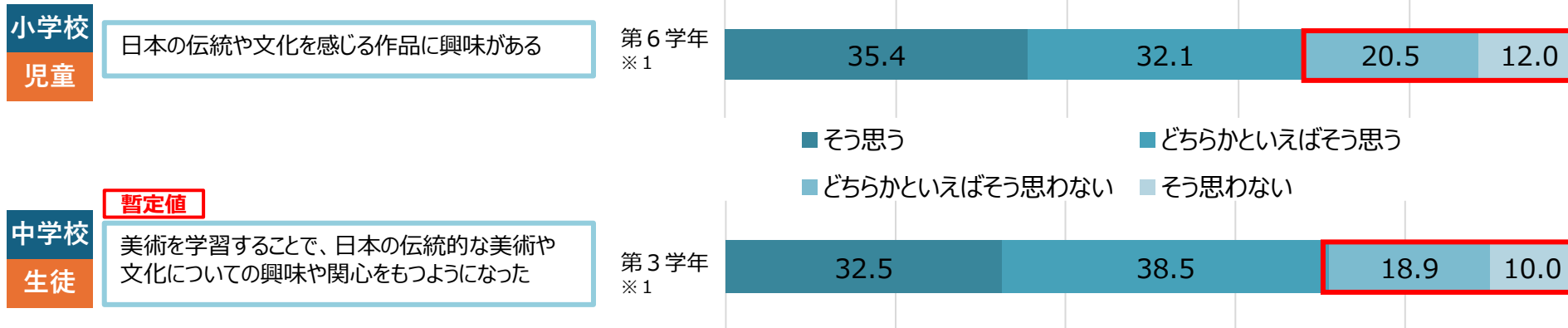
※3 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童生徒の割合 (%) (重み付き)

※4 中学校及び高等学校に合わせて再計算した数値を用いている

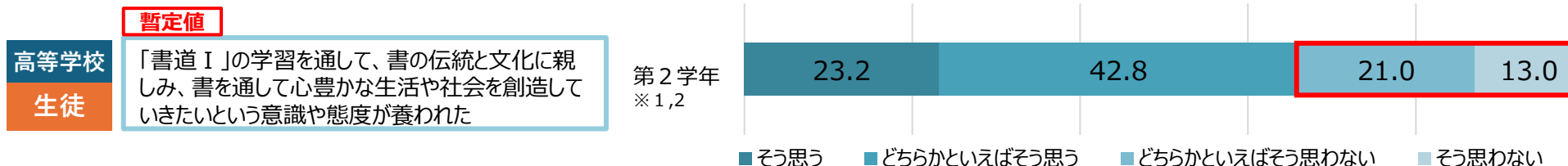
※5 音楽 I の履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

- ✓ 図画工作科・美術科において、日本の伝統や文化に関わる興味・関心について、一定の成果は見られるものの、児童生徒の3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 芸術科（書道）において、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度が養われたかについて、一定の成果は見られるものの、生徒の3割程度が否定的な回答をしている。

図画工作科・美術科



芸術科（書道Ⅰ）



※1 各選択肢を選んだ児童生徒の割合（%）（重み付き）

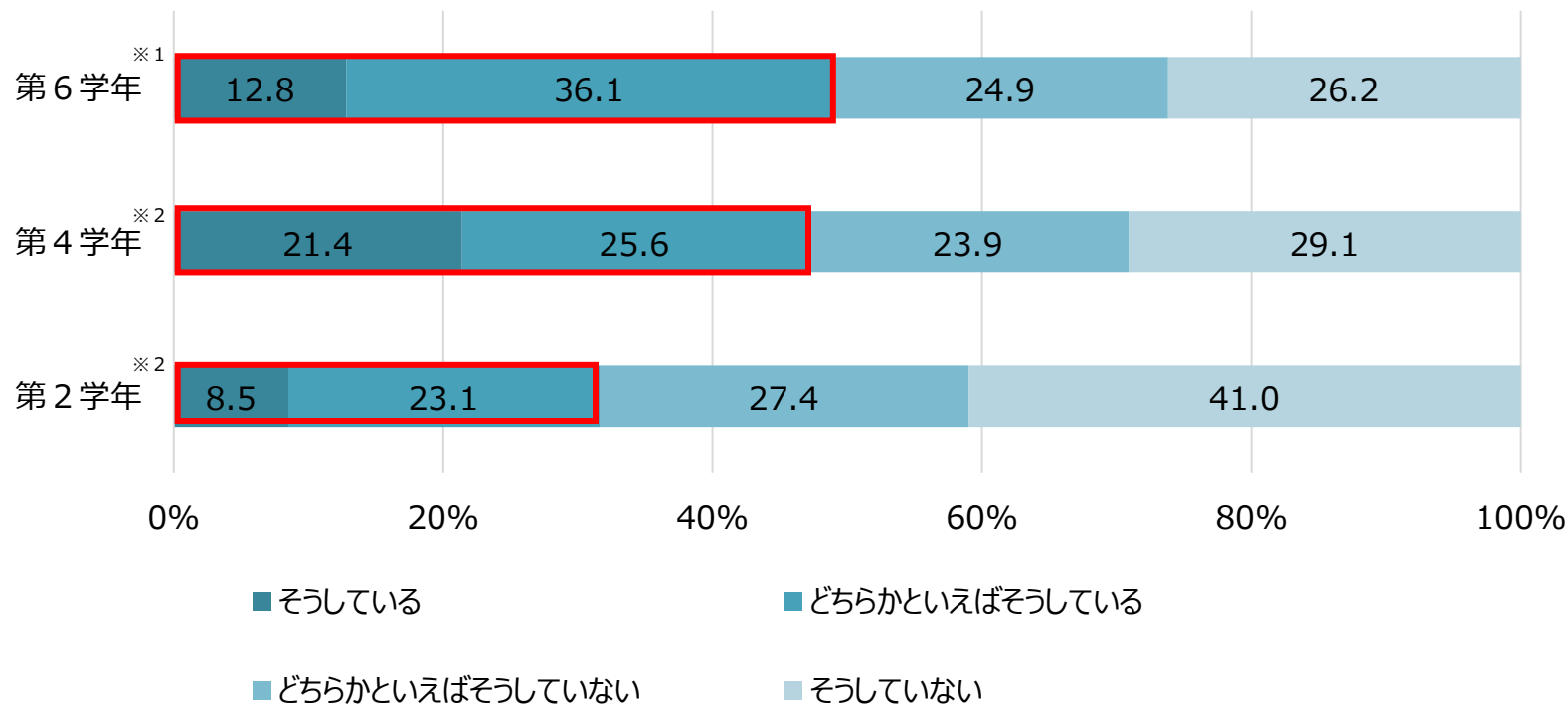
※2 書道Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

✓ 小学校音楽科において、外部の人々や学校外の施設の活用等について、教師の肯定的な回答が半数を下回っている。

音楽科

小学校
教師

音楽科の学習において、外部の人々などの協力を得たり、学校外の施設等を活用した授業を行ったりしている



※1：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（%）（重み付き）、※2：各選択肢を選んだ教師の割合（%）（重みなし）

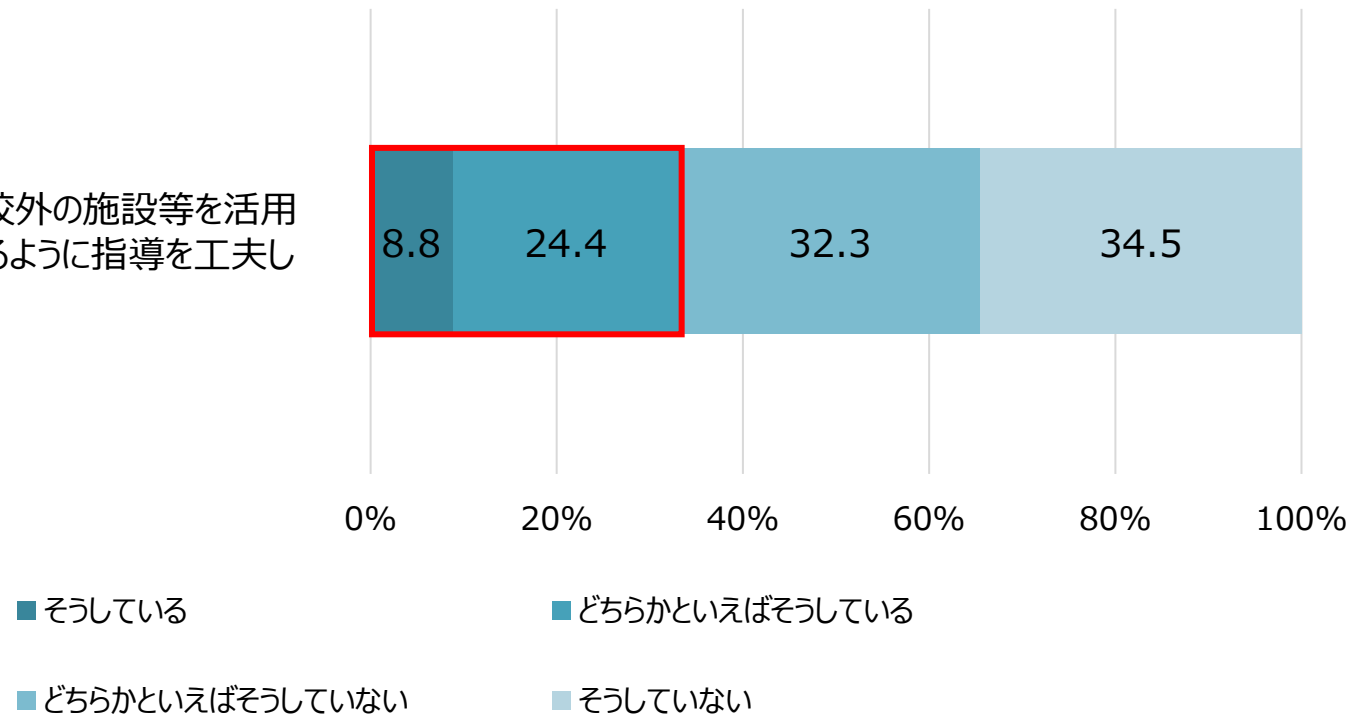
✓ 中学校音楽科において、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、教師の肯定的な回答が4割を下回っている。

音楽科（第3学年）

中学校
教師

暫定値

外部の人の協力を得たり学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

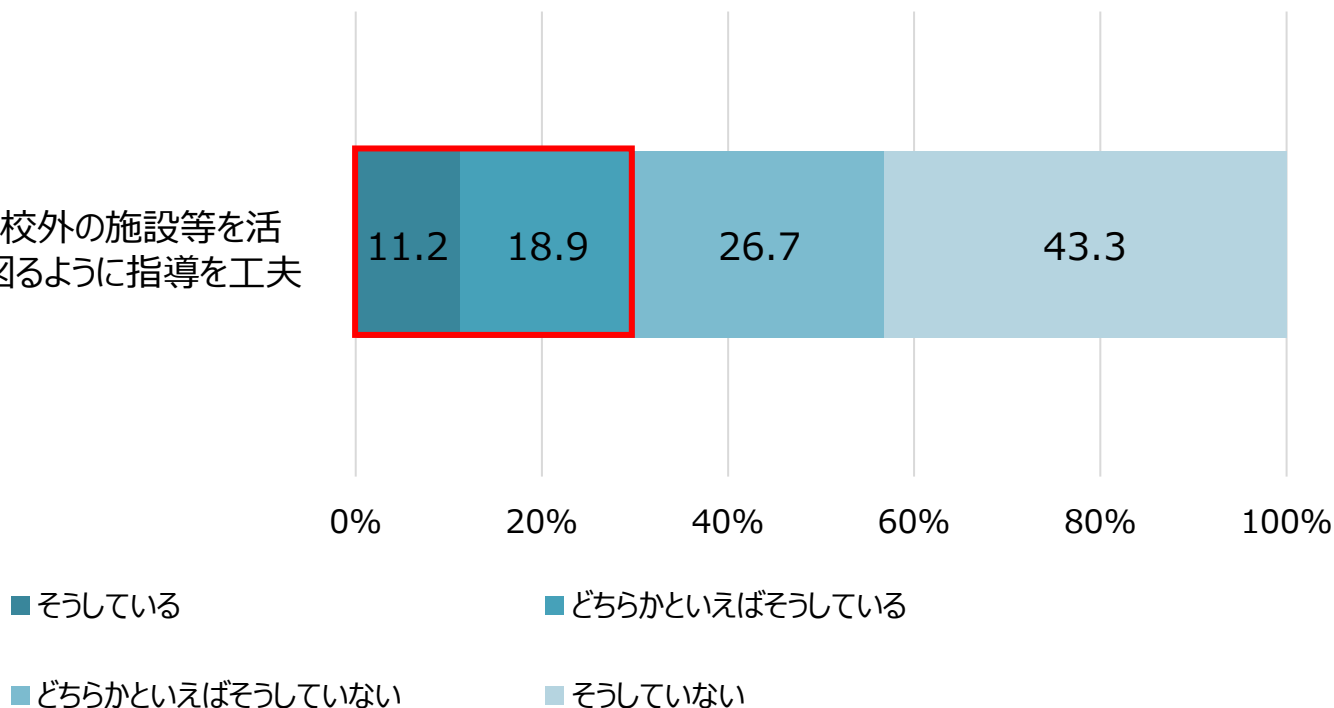
- ✓ 高等学校芸術科の音楽Ⅰにおいて、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、教師の肯定的な回答が半数を下回っている。

高等学校芸術科（音楽Ⅰ）

高等学校
教師

暫定値

外部の人の協力を得たり、学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している



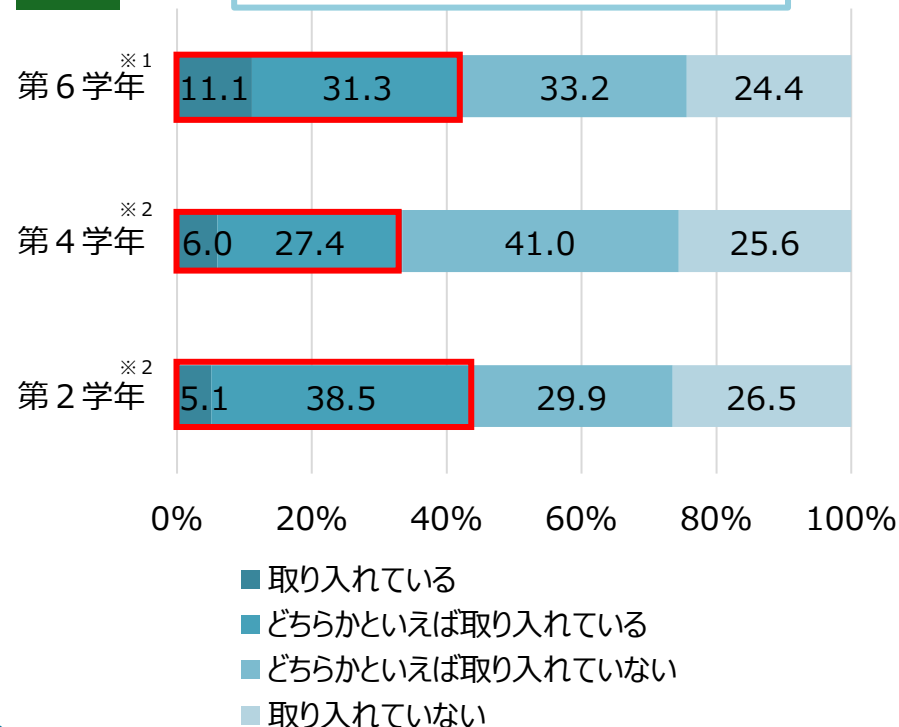
※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

✓ 小学校図画工作科において、地域や文化施設と連携した授業の実施状況について、教師の肯定的な回答が半数を下回っている。

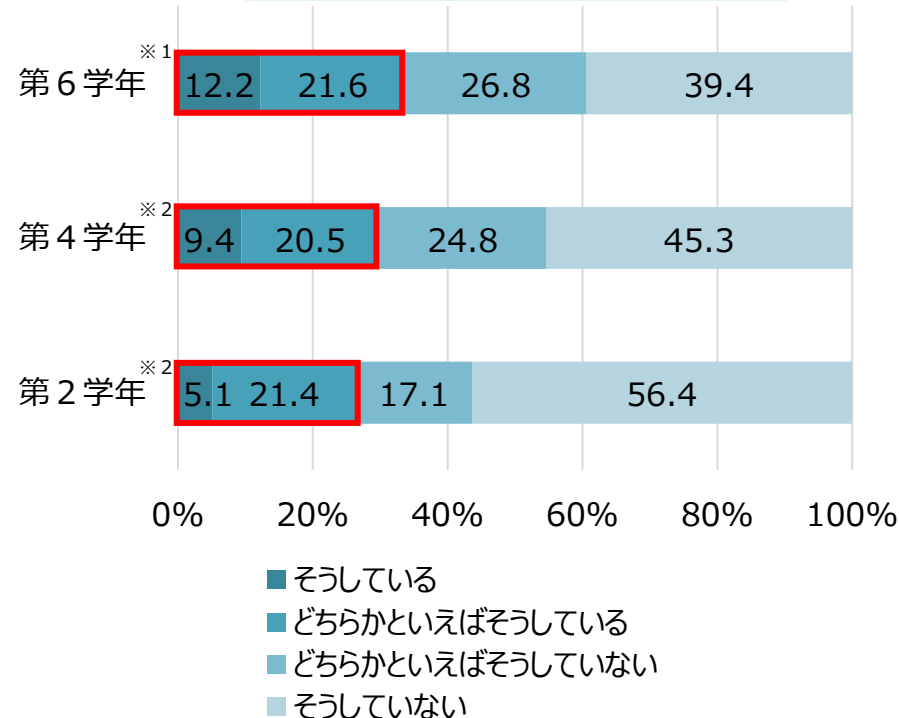
図画工作科

小学校
教師

図画工作の授業で、地域や社会の材料や場所、人を活用した活動を取り入れている



地域の美術館や博物館等を利用したり連携を図ったりするような授業を行っている



※1：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（％）（重み付き）、※2：各選択肢を選んだ教師の割合（％）（重みなし）

✓ 中学校美術科において、地域との連携や地域の人材の活用等について、教師の肯定的な回答が半数を下回っており、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は2割以下であった。

美術科（第3学年）

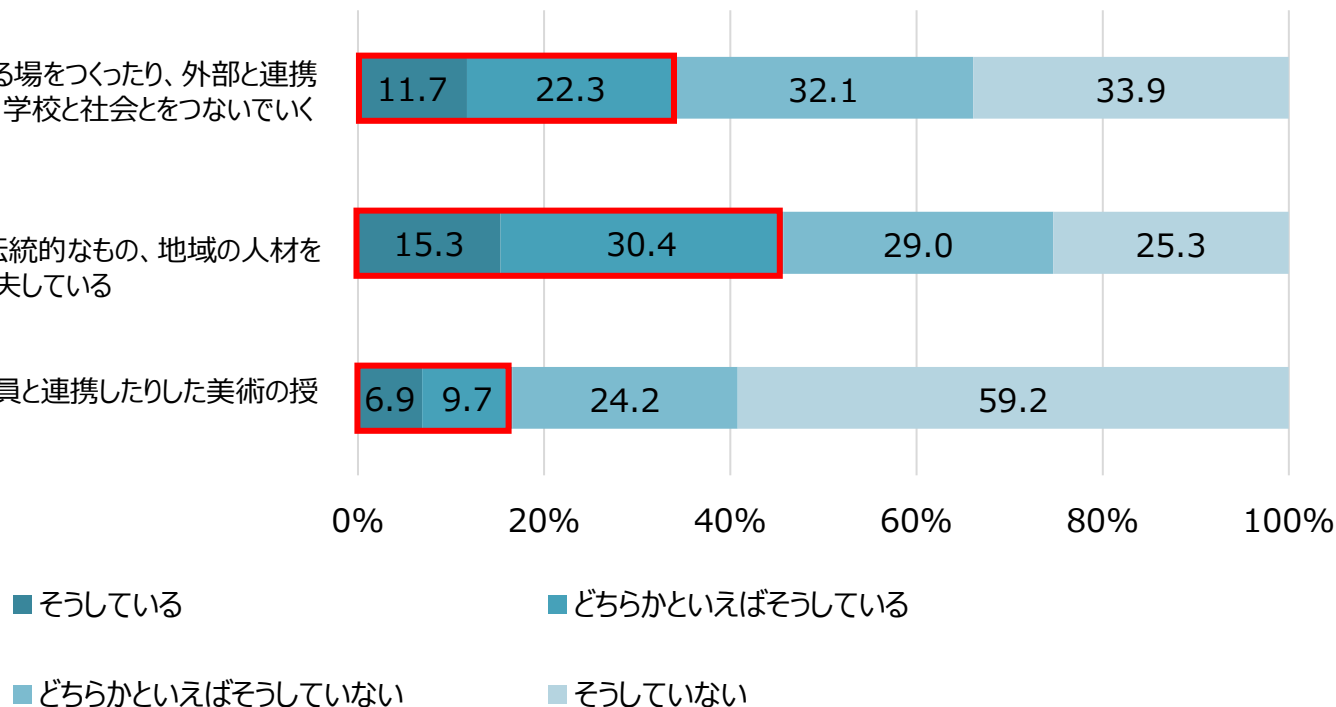
中学校
教師

暫定値

美術の学習において、地域で表現する場をつくったり、外部と連携を図り鑑賞の活動を行ったりするなど、学校と社会をつないでいく取組を行っている

美術の学習において、地域のものや伝統的なもの、地域の人材を活用した活動を取り入れた指導の工夫している

美術館や博物館を活用したり、学芸員と連携したりした美術の授業を行っている



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

✓ 高等学校芸術科の美術 I において、地域との連携や地域の人材の活用等について、教師の肯定的な回答が半数を下回っており、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は 2 割以下であった。

高等学校芸術科（美術 I）

高等学校
教師

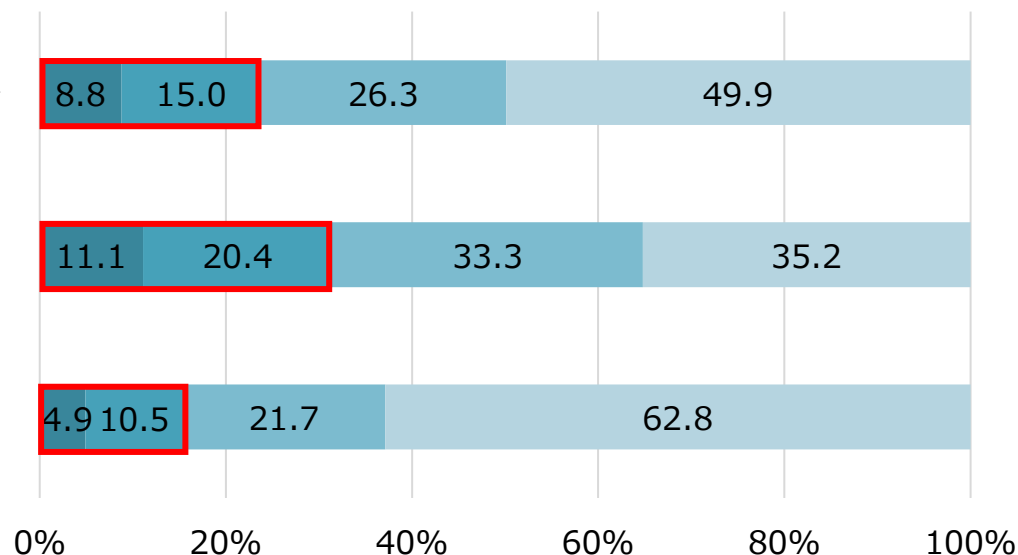
暫定値

表現や鑑賞の授業において、地域で表現する場を設定したり、外部と連携を図り鑑賞の活動を行ったりするなど、学校と社会とをつないでいく取組を行っている

表現や鑑賞の授業において、伝統的なものや地域の人材などを活用した指導の工夫している

美術館や博物館を活用したり、学芸員と連携したりした授業を行っている

■ そうしている ■ どちらかといえばそうしている
■ どちらかといえばそうしていない ■ そうしていない



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

- ✓ 高等学校芸術科の工芸 I において、伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫について、教師の 6 割以上が肯定的な回答を示したものの、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は 2 割以下であった。

高等学校芸術科（工芸 I）

高等学校
教師

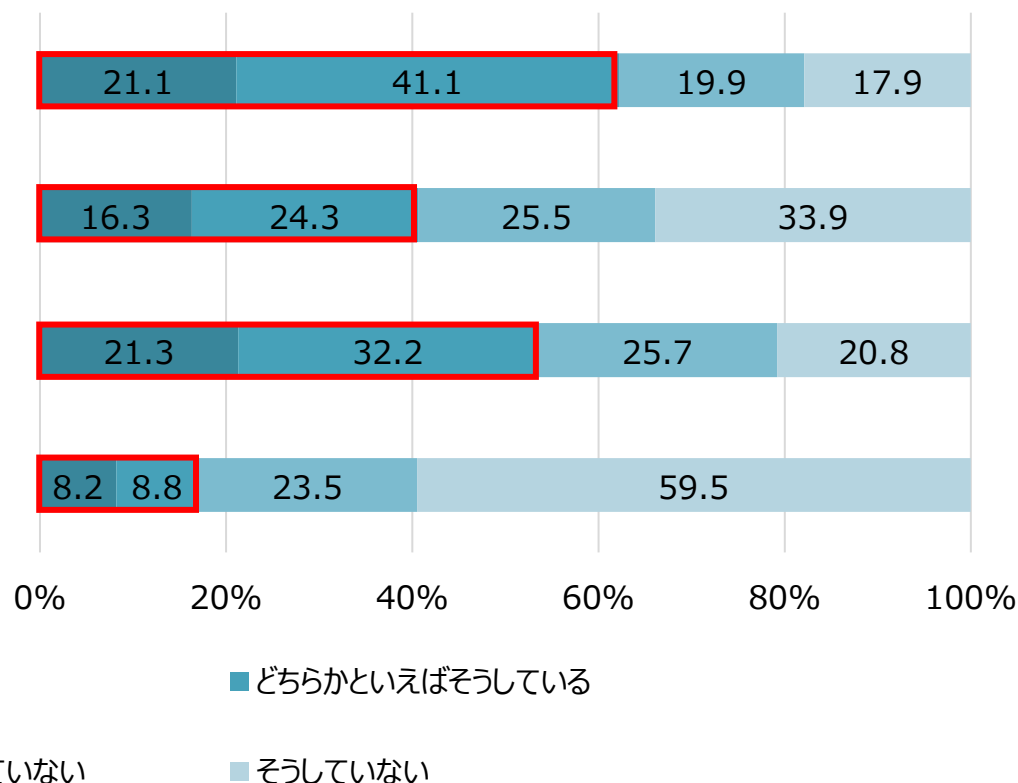
暫定値

表現の授業において、地域の材料や伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫をしている

表現や鑑賞の授業において、地域で表現する場を設定したり、外部と連携を図り鑑賞の活動を行ったりするなど、学校と社会とをつないでいく取組を行っている

表現や鑑賞の授業において、伝統的なものや地域の人材などを活用した指導の工夫をしている

美術館や博物館を活用したり、学芸員と連携したりした授業を行っている



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）